

19 独国生商第 44 号

平成 19 年 7 月 5 日

厚生労働省 老健局  
総務課長 殿

独立行政法人国民生活センター  
商品テスト部長



ミニカップタイプのこんにやく入りゼリーによる事故防止のために  
—消費者への警告と行政・業界への要望—について（情報提供）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。国民生活センターの業務につきましては、日ごろよりご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当センターでは今回、『ミニカップタイプのこんにやく入りゼリーによる事故防止のために—消費者への警告と行政・業界への要望—』をテーマにテストを行ったところ、別紙（7月5日公表資料）の内容で結果がまとまりましたので情報提供いたします。

なお、要望・情報提供は下記の行政機関・関係機関に対して行ったことをあわせてお伝えします。

## 記

### 要望・情報提供先

#### 1) 要望先

内閣府 食品安全委員会 事務局 情報・緊急時対応課  
厚生労働省 医薬食品局 食品安全部  
農林水産省 総合食料局 食品産業振興課  
農林水産省 生産局 特産振興課  
全日本菓子協会  
全国菓子工業組合連合会  
全国こんにやく協同組合連合会

#### 2) 情報提供先

内閣府 国民生活局 消費者調整課  
厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課  
厚生労働省 老健局 総務課  
農林水産省 消費・安全局 消費・安全政策課

## ミニカップタイプのこんにゃく入りゼリーによる事故防止のために —消費者への警告と行政・業界への要望—

### 1. 目的

国民生活センターでは、一口サイズのいわゆる「ミニカップ」に入ったこんにゃく入りゼリーについて、乳幼児や高齢者の窒息事故が相次いだことから、これらの製品が、「形状的にほとんどの場合口で吸い出して直接食べること」「物性的な特徴として、かたく、弾力性が強いこと」「こんにゃくを含んでいない柔らかいゼリーと外観的に区別しにくいこと」などの特徴を有する危険性を指摘してきた。そして、事故を回避するために 1995 年以降過去 8 回にわたってテスト結果や警戒情報を出してきた。

過去の当センターの業界及び行政への要望や農林水産省の指導もあり、業界でも表示等の改善努力を図ってきたと思われるが、未だに死亡事故が発生している。

1997 年の当センターの 6 回目の注意喚起以降、しばらくの間報告件数は減っていたが、今年に入り、新たに 2 件の小児の窒息による死亡事例報告があり公表したところ、さらに窒息による死亡事例が高齢者で 2 件、幼児で 1 件寄せられた。これらのことから、潜在的にこんにゃく入りゼリーによる窒息事故は引き続き起こっていたものと思われる。

そこで、現在、市販されているこんにゃく入りゼリーについて、かたさや弾力性、大きさなどについて調べるとともに事故防止のための注意表示がどのようになされているか、過去に行ったテスト結果との違いをまとめ消費者に注意喚起の情報提供をすると同時に、事故の再発防止のために行政、業界に対策を要望する。

### 2. テスト期間

検体購入 : 2007 年 6 月

テスト期間 : 2007 年 6 月

### 3. テスト対象銘柄

神奈川県や東京都で購入可能なミニカップタイプのこんにゃく入りゼリー 33 ブランド (72 銘柄) 及び参考品として原材料にこんにゃくの表示のないゼリー (以下、普通のゼリーと呼ぶ) 27 ブランド (28 銘柄) をテスト対象とした。(参考資料 参照)

\*テスト対象商品には、製造者もしくは販売者(輸入者)及び商品の名称が同じで、表示等のデザインもよく似ており、味のバリエーションが異なるものがパッケージングされている商品が複数存在するものがある。本報告書では、銘柄名が同じである一連の商品群を「ブランド」と呼称し、個別にパッケージングされた商品を「銘柄」と呼称している。

#### 4. 概要

ミニカップタイプのこんにゃく入りゼリー72 銘柄について、かたさ、弾力性、最大径、体積及び表示について調べた。1995～1997年にテストした当時の結果との違いをまとめ、2007年6月現在までの事故事例や海外での規制の情報などとあわせて情報提供する。

##### 1) 事故事例

###### ●1995年から2007年6月までにこんにゃく入りゼリーによる死亡事故事例は14件あった

国民生活センターが情報提供を初めて行った1995年以降、こんにゃく入りゼリーによる死亡事故は14件起きている。内訳は、5歳以下の幼児が4件、6～7歳の小児が4件、65歳以上の高齢者が5件、他が1件となっており、子どもと高齢者に集中している。

##### 2) テスト結果

###### ●過去にテストを行ったときより非常にかたく弾力性の強い商品群がみられた

今回実施したテストでは、過去にテストを行ったとき(1995～1997年)と比べ、非常にかたく弾力性の強い商品群があり、中には、ゼリーの表面が破断するまでのかたさが1kgfを超えるものもあった。

###### ●普通のゼリーと比べて一目で違うと分かる形状のものはほとんどなかった

こんにゃく入りゼリーの形状はフタに接触する部分が円形(76.4%)でゼリー自体の形状がバケツのような円柱状で花弁様のひだやミノのあるもの(25.0%)が最も多く、普通のゼリーと同様の傾向にあり、一目で普通のゼリーと違うことが分かる形状のものはほとんどなかった。

###### ●事故報告のあったこんにゃく入りゼリーの最大径や体積はばらついていて

こんにゃく入りゼリーで過去に事故報告のあった銘柄についてみるとテストした中では比較的小さいものから大きいものまであり、大きさにかかわらず事故が起きていることがわかった。

###### ●子どもや高齢者に与えないように注意する表示は6割以上の銘柄では見られなかった

こんにゃく入りゼリーの注意表示の中で、子どもに与えないように注意を促していたものは25銘柄(34.7%)あったが、内15銘柄はその対象が「3才以下」となっていた。また、高齢者に与えないように注意を促していたのは8銘柄(11.1%)しかなかった。

###### ●子どもや高齢者に与える場合、小さく切って与えるよう注意を促す表示は7割以上に見られた

こんにゃく入りゼリーの64銘柄(88.9%)は、銘柄名等の表示を見ればこんにゃくが入っているとわかるようになっていた。また、小さく切って与えるよう注意を促す表示があったものは子どもに対するものが57銘柄(79.2%)高齢者に対するものが54銘柄(75.0%)に見られた。

##### 3) 日本及び海外での規制に関する情報

###### ●日本では、2007年6月現在、製品に対する公的な規格や基準の設定、規制は特に行われていない

日本では、国民生活センターがこんにゃく入りゼリーの窒息事故に関する公表を9回行ったが、それを受ける形で、農林水産省より業界団体等に対し7回指導が行われている。しかし、2007年6月現在、製品に対する公的な規格や基準の設定、規制は特に行われていない。

###### ●アメリカ、EU、韓国などでこんにゃく入りゼリーの回収や規制が行われている

アメリカ、カナダ、オーストラリア及び韓国では、2000年以降にこんにゃく入りゼリーによる死亡事故が発生しており、商品の回収や規制などが行われている。また、EUでは、2003年に海外の状況に鑑みゼリー菓子へのこんにゃくの使用を禁止する決定が行われている。

## 5. 危害情報から

### 1) 死亡事故について

当センターは、こんにやく入りゼリーの事故に関して、消費者被害の未然防止・拡大防止の観点から繰り返し情報提供をしてきたところである。しかしながら、こんにやく入りゼリーによる死亡事故が2件発生した（【事例1】【事例2】参照。2007年5月23日公表済）。この2事例はいずれも7歳の子どもの発生しており、これまでの2～3歳程度の幼児の事故とは異なっている。特に、【事例2】では、製品の注意書きに「もし喉に詰まったときは背中を叩いて取り出して下さい」と記載されていたが、事故が発生したときに相談者が当該処置を施しても全く取り出すことができず、駆けつけた救急隊員が医療用の器具を用いて取り出したという状況だった。

また、その反響として新たに死亡事故が寄せられた（【事例3】【事例4】参照。同年6月15日公表済）。さらに1件、新たな死亡事故の情報が寄せられている（【事例5】参照）。これにより、こんにやく入りゼリーでの死亡事故件数は合計14件となる。

上記の死亡事故は、当センターが把握している事故であり、潜在的にはもっと多くの事故が発生している可能性がある。

#### 【事例1】

2007年3月23日、学童保育でおやつとして支給されたこんにやく入りゼリーを食べたところ、喉に詰まらせ、救急車で搬送されたが亡くなった。

(2007年3月 7歳 男児 三重県)

#### 【事例2】

2007年4月29日、祖父母宅でこんにやく入りゼリーを食べたところ、喉に詰まらせ、救急車で搬送されたが、5月5日亡くなった。

(2007年4月 7歳 男児 長野県)

#### 【事例3】

父親が祖母にこんにやく入りゼリーをスプーンで小さく切って与えていたところ、喉に詰まらせた。救急車で運ばれたが、低酸素脳症になり、3ヶ月後に死亡した。報道でこんにやく入りゼリーの死亡事故を知ったが、事故数はもっと多いと思うし、危険性も思ったほど知られていないのではないかと思う。

(2002年7月 80歳 女性 秋田県)

#### 【事例4】

夫がペースメーカーの手術をした後、自宅で療養中、食欲がなかったため、自宅にあったこんにやく入りゼリーをスプーンで4分の1ずつすくって食べさせた。2回目を口にしたところ、気管に詰まらせて苦しみ始めた。背中をたたいたところ、1つは出てきたが、

2つ目が詰まったままであった。救急車を呼んで病院に搬送してもらったが、死亡した。

(2006年6月 79歳 男性 兵庫県)

【事例5】

自分は医師である。1999年12月にも2歳男児がこんにゃく入りゼリーを喉に詰まらせて死亡しているので情報提供する。学会ではすでに公表されているが、死亡事故を起こしたこんにゃく入りゼリーは容器がハート型で、縦最長4.8センチ、横最長4.5センチ、高さ3.3センチである。事故は母親がふたを外して与えた後、別棟の冷蔵庫にもう1個取りに行った数分間に起こり、母親が戻った時、男児はテーブル上で仰臥位でぐったりしていた。

(1999年12月 2歳 男児 京都府)

(\*) 上記事例の括弧内は事故発生日および被害者の属性です。

表1. こんにゃく入りゼリーによる死亡事故一覧 (参考)

事故発生日	被害者の性別	事故時の被害者年齢
1995年7月	男性	1歳6ヶ月
1995年8月	男性	6歳
1995年12月	女性	82歳
1996年3月	男性	87歳
1996年3月	男性	68歳
1996年3月	男性	1歳10ヶ月
1996年6月	男性	2歳1ヶ月
1996年6月	男性	6歳
1999年4月	女性	41歳
1999年12月	男性	2歳
2002年7月	女性	80歳
2006年6月	男性	79歳
2007年3月	男性	7歳
2007年4月	男性	7歳

合計：14件 (ゴシック体の事故が新たに寄せられた死亡事故)

2) 死亡には至らなかった窒息事故の危害件数について

(1) 過去 10 年間の件数の推移

表 2. 死亡には至らなかった窒息事故の年度別危害件数

事故発生年月	被害者の性別	事故時の被害者年齢	危害程度
1997年 4月	女性	1歳 10ヶ月	1~2週間
5月	男性	5歳	医者にかからず
6月	男性	2歳	医者にかからず
2006年 4月	男性	2歳	医者にかからず
10月	男性	2歳	不明
事故年月不明	男性	9歳	医者にかからず
事故年月不明	女性	1歳 10ヶ月	不明

\*1997年度以降 2007年 6月 21日までの登録分。「不明」に関してはここ 10年以内に発生していない可能性がある。

被害者の年齢	被害者の性別	事故発生年月
1歳 10ヶ月	女性	1997年 4月
5歳	男性	1997年 5月
2歳	男性	1997年 6月
2歳	男性	2006年 4月
2歳	男性	2006年 10月
9歳	男性	事故年月不明
1歳 10ヶ月	女性	事故年月不明

## 6. テスト結果

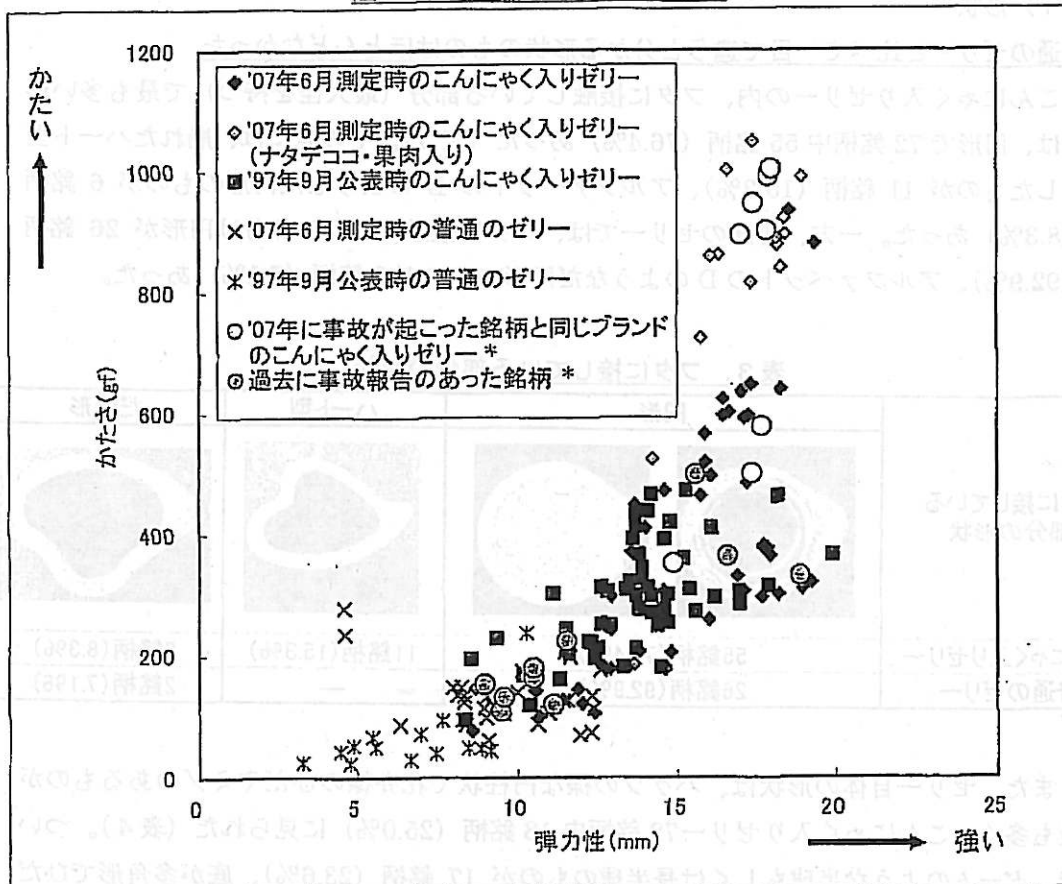
### 1) かたさ・弾力性

過去にテストを行ったときより非常にかたく弾力性の強い商品群がみられた

気温 20℃、相対湿度 60%RH の恒温恒湿室内で、レオメーター（㈱サン科学 TYPE CR-200D）を用いて、ゼリーの表面が破断するまでにかかった力（かたさ）とゼリーの表面が破断するまでにどの位陥没するかの距離（弾力性）を測定した。

過去に国民生活センターで実施した同様のテストの結果（1995～1997年に実施）と併せて、図1に結果を示す。

図1. ゼリーのかたさと弾力性



\*事故が起こった銘柄と同じブランド名の商品を他の種類の味も含めて実施しており、事故品による試験の数値ではない。

こんにやく入りゼリーの結果を見ると、今回のテストでは、過去のテストでは見られなかった非常にかたく弾力性の強い商品群があった。中には破断するまでのかたさが1kgfを超える銘柄もあった。

今年に入って事故が起こった銘柄と同じブランドのこんにやく入りゼリーについて調べたところ、一方のブランド（エスピーカリー「ちぎりたて果熟園」No.16～18：参考

資料 参照) は図 1 の中ほどの 3 点であり、もう一方のブランド (ハーベスト「収穫のおかけ」No.36~40: 参考資料 参照) は、図 1 の上部の 5 点であった。

また、普通のゼリーに関しては、今回実施した結果は、過去に実施したときと比べ、ゼリー全体として、かたさ、弾力性ともにやや上がっていた。

なお、1997 年にソフトタイプをうたったものについてテストをした際には、こんにやく入りゼリーとしてはやわらかいものがみられたが、過去に事故のあった銘柄についてみるとこんにやく入りゼリーとしては比較的やわらかい銘柄でも事故が起こっていたことがうかがえる。

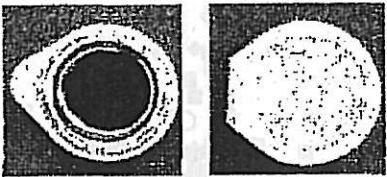

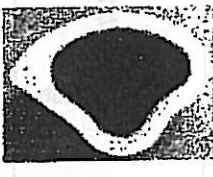
## 2) 形状・大きさ

### (1) 形状

#### 普通のゼリーと比べて一目で違うと分かる形状のものはほとんどなかった

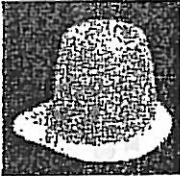
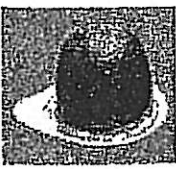




こんにやく入りゼリーの内、フタに接触している部分 (最大径を持つ) で最も多い形状は、円形で 72 銘柄中 55 銘柄 (76.4%) あった (表 3)。その他には、崩れたハート型をしたものが 11 銘柄 (15.3%)、アルファベットの D のようなだ円形 (だ円形) のものが 6 銘柄 (8.3%) あった。一方、普通のゼリーでは、フタに接触している部分は円形が 26 銘柄 (92.9%)、アルファベットの D のようなだ円形 (だ円形) のものが 2 銘柄 (7.1%) あった。

表 3. フタに接している部分の形状

	円形	ハート型	だ円形
フタに接している部分の形状			
こんにやく入りゼリー	55 銘柄 (76.4%)	11 銘柄 (15.3%)	6 銘柄 (8.3%)
普通のゼリー	26 銘柄 (92.9%)	—	2 銘柄 (7.1%)

また、ゼリー自体の形状は、バケツの様な円柱状で花卉様のひだやミノのあるものが最も多く、こんにやく入りゼリー 72 銘柄中 18 銘柄 (25.0%) に見られた (表 4)。ついで、ドームのような半球もしくは長半球のものが 17 銘柄 (23.6%)、底が多角形でひだのないバケツの様なもの (多角柱) が 15 銘柄 (20.8%)、底の形状がハート型で、ややフタより面積がすぼまっているもの (ハート柱) が 11 銘柄 (15.3%)、円錐の様な形状でミノのあるものが 5 銘柄 (7.0%)、だ円柱が 6 銘柄 (8.3%) あった。一方、普通のゼリーでは、バケツの様な円柱状で花卉様のひだやミノのあるものが最も多く 15 銘柄 (53.6%)、半球もしくは長半球のものが 7 銘柄 (25.0%)、底が多角形でひだのないバケツの様なもの (多角柱) が 4 銘柄 (14.3%)、だ円柱が 2 銘柄 (7.1%) あった。

表4. ゼリー自体の形状

	バケツ様(ひだ・ミゾ有)	半球	多角柱
ゼリー自体の形状			
こんにゃく入りゼリー	18銘柄(25.0%)	17銘柄(23.6%)	15銘柄(20.8%)
普通のゼリー	15銘柄(53.6%)	7銘柄(25.0%)	4銘柄(14.3%)
	ハート柱	円錐	だ円柱
ゼリー自体の形状			
こんにゃく入りゼリー	11銘柄(15.3%)	5銘柄(7.0%)	6銘柄(8.3%)
普通のゼリー	—	—	2銘柄(7.1%)

以上のことより、こんにゃく入りゼリーは普通のゼリーと比べて容器の形は大差ないものが多く、一目見てこんにゃく入りゼリーと分かるような形状のものはほとんどなかった。

## (2) 最大径と体積

### 事故報告のあったこんにゃく入りゼリーの最大径や体積はばらついていた

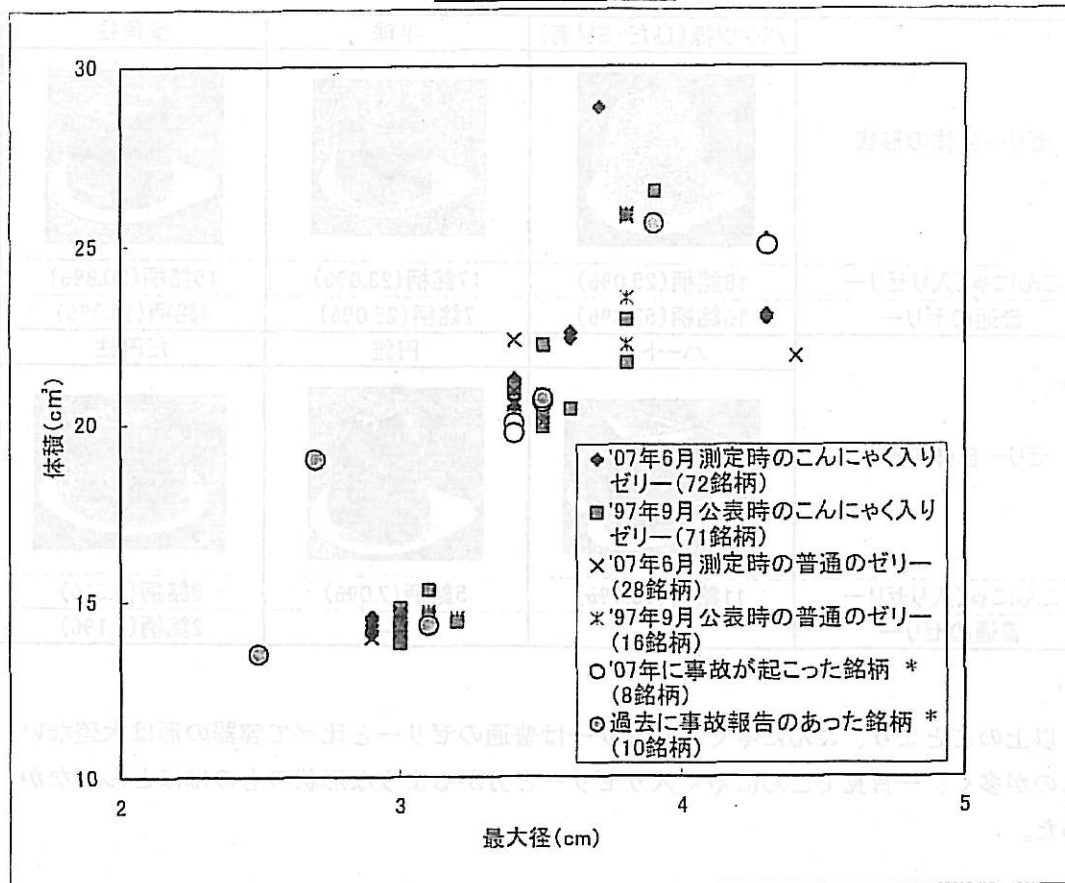
ゼリー上部のふたに接している部分の最大径とゼリーの体積を調べた。過去に国民生活センターで実施した同様のテストの結果(1995~1997年に実施)と併せて、図2に結果を示す。

こんにゃく入りゼリーは、過去に実施した際の最大径と体積の平均がそれぞれ3.4cm、18.9cm<sup>3</sup>だったのに対し、今回実施した結果は、3.5cm、20.2cm<sup>3</sup>とあまり変わらない結果となった。

また、今年に入って事故が起こった銘柄と同じブランドのこんにゃく入りゼリーについてみると、一方のブランドでは最大径、体積とも今回調べたこんにゃく入りゼリーとしてはほぼ平均的なものだったのに対し、もう一方のブランドは、最大径、体積とも大きい部類に入っていた。

一方、普通のゼリーは、過去に実施した際の最大径と体積の平均が3.3cm、16.7cm<sup>3</sup>だったのに対し、今回実施した結果は、2.9cm、13.9cm<sup>3</sup>と平均的にやや小さくシフトしていた。

図2. 最大径と体積



\*事故が起こった銘柄と同じブランド名の商品を他の種類の味も含めて実施しており、事故品による試験の数値ではない。

なお、過去に事故報告のあった銘柄についてみると大ききにかかわらず事故が起こっていることがわかる。また、過去に実施したテストでは、テストした範囲の大きさのゼリーは一口で食べることが可能であったことから、このタイプのゼリーは、直接、ゼリー容器から一口に吸い込むことが可能であり、大ききにかかわらず事故が起こる可能性がある。

### 3) 表示について

#### (1) 注意表示について

子どもや高齢者に与えないように注意する表示は6割以上の銘柄では見られなかった

「そのまま吸い込むとのどに詰まる可能性があります」や「よく噛まないで、のどに詰まらせる危険性があります」など、のどに詰まらせる可能性があることを表示していたのは67銘柄(93.1%)あった(表5)。また、「窒息する危険性があります」と記載されたものが6銘柄あった。

さらにゼリー容器のフタに注意表示があったものは21銘柄(29.2%)であった。内訳

は、「のどに詰まらせないようによくかんでお召しあがりください」が 11 銘柄、「吸い込み注意」が 6 銘柄、「吸い込みにご注意ください」が 3 銘柄、「よくかんでお召し上がり下さい」が 1 銘柄であった。

また、こんにゃく入りゼリーの注意表示の中で、「小さなお子様には不向きですのでご注意ください」など、子どもに与えないように注意を促していたものは 25 銘柄 (34.7%) あったが、内 15 銘柄はその対象が「3 歳以下」となっていた。また、高齢者に与えないように注意を促していたのは 8 銘柄 (11.1%) しかなかった。

表 5. 注意表示

表示内容	こんにゃく入りゼリー 銘柄数 (%)	普通のゼリー 銘柄数 (%)
のどに詰まらせる可能性がある	67 (93.1%)	13 (46.4%)
内、凍らせた場合のみ	0	4 (14.3%)
子どもに与えない	25 (34.7%)	0
内、3歳以下の子ども対象	15 (20.8%)	0
高齢者に与えない	8 (11.1%)	0
ゼリー容器のフタに注意表示がある	21 (29.2%)	1 銘柄 (3.6%)

\*こんにゃく入りゼリーは72銘柄中、普通のゼリーは28銘柄中。

なお、普通のゼリーでは、28 銘柄中 13 銘柄 (46.4%) でのどに詰まらせる可能性があることが分かる表示があり、内 4 銘柄は凍らせた場合のみのどに詰まらせる可能性がある旨記載されていた。

(2) 原材料表示以外にこんにゃくが使用されている旨の表示があるか  
パッケージを一通り見ただけでこんにゃくが使用されていることがわかるようになっていたものは 64 銘柄 (88.9%) あった

銘柄名等に「こんにゃく」「コンニャク」「蒟蒻」などのこんにゃくが使用されていることがわかる言葉が含まれていたものや銘柄名以外でこんにゃくが使用されていることが強調表示されていたものはあわせて 64 銘柄 (88.9%) あった。すなわち、64 銘柄 (88.9%) では、商品のパッケージを一通り見ただけでこんにゃくが使用されていることがわかるようになっていた。

(3) 食べる際の注意事項について  
子どもや高齢者に与える場合、小さく切って与えるよう注意を促す表示は 7 割以上に見られた

こんにゃく入りゼリーのうち子どもには小さく切って与えるよう注意を促す表示があったものは 57 銘柄 (79.2%) あった (表 6)。ただし、そのうち 17 銘柄は子どもに与え

ないよう（8歳以下を対象としたもの15銘柄を含む）記載があったものだった。また、高齢者に対しても小さく切って与えるよう注意を促す表示は54銘柄（75.0%）に見られたが、こちらは高齢者には与えないよう記載があった銘柄と重なるものはなかった。さらに年齢等の指定なく、よくかんで食べるように注意を促していたものは57銘柄（79.2%）あった。

また、こんにゃく入りゼリーのうち凍らせないような注意があったものは37銘柄（51.4%）と約半数にとどまった。

さらにのどに詰まった場合「うつぶせにして背中をたたく」などの具体的な指示の書いてあったものは、18銘柄（25.0%）しかなかった。ただし、医師等に指示を仰ぐような注意が書いてあるものはなかった。

表6. 食べ方に関する注意事項

表示内容	こんにゃく入りゼリー 銘柄数(%)	普通のゼリー 銘柄数(%)
子どもには小さく切って与えるように	57(79.2%)	8(28.6%)
内、凍らせた場合のみ	0	4(14.3%)
高齢者には小さく切って与えるように	54(75.0%)	2(7.1%)
内、凍らせた場合のみ	0	1(3.6%)
よくかんで食べる	57(79.2%)	8(28.6%)
凍らせないように	37(51.4%)	4(14.3%)
のどに詰まった場合の対処	18(25.0%)	0

\*こんにゃく入りゼリーは72銘柄中、普通のゼリーは28銘柄中。